

2020年度第2四半期 決算報告書

プレスリリース
2020年7月31日、パリ発



2020年度第2四半期：BNPパリバの多角的かつ統合的なビジネスモデルの 盤石さを証明

営業収益が増大

前年同期比+4.0%

営業費用は減少

前年同期比-1.3%

営業総利益が堅調に増加

前年同期比+14.5%

主に予想損失の事前引当により、リスク費用が増加

65 bp¹

このうち、事前引当は15bp (3億2,900万ユーロ)

健康危機による打撃を踏まえると、純利益は高水準

純利益²: 22億9,900万ユーロ (前年同期比-6.8%)

普通株式等Tier 1比率が上昇

12.4%

1. リスク費用+顧客向け融資期首残高 (単位: ベーシスポイント) 2. 親会社株主帰属純利益



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world



2020年7月30日、BNPパリバの取締役会が開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2020年度第2四半期の業績が検討され、同上半期の財務諸表が承認されました。

今回の決算を踏まえ、ジャン＝ローラン・ボナフェCEO（最高経営責任者）は取締役会の最後に以下のように述べました。

「我々の多角的なバンキングモデルは、未曾有の健康危機に直面しているお客様や経済を支える上で有効であることを実証しています。BNPパリバはチーム、リソース、専門知識を即座に結集し、欧州内外のお客様のニーズを満たすことができました。

我々がこのように経済に幅広く資金提供できることは、個人法人/機関投資家のお客様のために長期にわたって行ってきた取り組みの結果であり、グループの財務健全性、事業の多様性と統合性、お客様との緊密な関係、厳格なリスク管理、事業基盤における執行能力の反映です。

BNPパリバの全チームが卓越した結束力で一丸となって経済や社会を支えていることに敬意を表します。我々はお客様に寄り添い、危機がもたらす経済的・社会的影響の抑制に邁進しています。今後も我々の持つ力を全て動員し、着実に持続可能な景気回復を確かなものにしてまいります。

*
* *

多角的な事業基盤を結集し、経済に貢献

2020年度上半期、BNPパリバ・グループは健康危機への対策として講じられたロックダウン（都市封鎖）措置のなか、自らのリソースや専門知識を結集し、お客様のため、世界中で2,500億ユーロ以上の資金調達を行いました¹（欧州の1,660億ユーロ¹を含む）。900億ユーロ超のローン¹は銀行や機関投資家と組成または協調して実施され、1,500億ユーロ以上¹の債券は投資家向けに発行、販売され、株式も100億ユーロ近く発行されました。BNPパリバは、3月中旬以降、EMEA²地域のシンジケートローン全体の70%、債券発行の53%に参加しています^{1,3}。

BNPパリバは公的機関の企業支援措置、特に政府保証融資の実施にも助力しました。当グループのリテール・バンキング支店網において、6月末時点で9万件近い政府保証融資を実現しています。

¹ 出所：Dealogic社、2020年6月末現在、ブックランナー、分担額

² EMEA：欧州、中東、アフリカ

³ 総額に占める比率

BNPパリバの多角的かつ統合的なビジネスモデルの盤石さを証明

BNPパリバでは、危機局面下の経済の特有のニーズへの対応により、特定の事業（特にコーポレート・バンキング、グローバル・マーケット、国内市場部門および国際金融サービス部門のリテール・バンキング）の事業活動がきわめて活発になりました。

公衆衛生対策は当グループの事業活動に悪影響を及ぼし、取引やローン組成の減少につながりましたが（特に、提携企業の販売拠点閉鎖の余波を受けた消費者金融分野）、今年4～5月が底で、6月には回復し、欧州の復調は予想以上に堅調でした。

当グループ全体の当四半期の営業収益は116億7,500万ユーロとなり、前年同期比4.0%の増収でした。グループの多角的かつ統合的なビジネスモデルの盤石さが奏功しました。

事業部門の営業収益は前年同期比5.2%の増収でしたが、国内市場部門¹では5.2%の減収、国際金融サービス部門では5.5%の減収²でした。両部門とも、健康危機と長引く低金利環境の影響を強く受けながら、底堅さを示しました。ホールセールバンキング（CIB）部門は、顧客セグメント全てで事業活動を高水準に維持でき、大幅増収（+33.1%）を果たしました。

営業費用は、グループ全体で73億3,800万ユーロと前年同期比1.3%減でした。この中には、一時項目として、事業再編費用³と事業適応費用⁴（3,000万ユーロ）、IT強化費用（4,500万ユーロ）、健康危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用（8,600万ユーロ）が合計1億6,100万ユーロ含まれています（前年同期は3億3,600万ユーロ）。2020年度事業計画で公表したように、一時項目の事業変革費用はゼロでした（前年同期は2億2,200万ユーロ）。

営業費用には欧州連合（EU）の単一破綻処理基金に対する拠出金増額分1億1,200万ユーロも含まれていません。EU当局が当四半期中に拠出の引き上げを行ったことによるものです。

一方、事業部門の営業費用は前年同期比横ばい（+0.2%）でしたが、国内市場部門では2.8%減で、特にリテール・バンキング業務⁵における減少が顕著でした（-3.6%）。国際金融サービス部門の営業費用は、コスト節減策を強化した効果により、5.7%の大幅減⁶となりました。CIB部門では高水準の正のジョーズ効果（+21.9ポイント）を達成しましたが、極めて好調な事業活動に伴って営業費用が膨らみました（+11.2%）。

営業総利益は、グループ全体で当四半期に43億3,700万ユーロとなり、前年同期比14.5%の増益でした。

リスク費用は、14億4,700万ユーロで、前年同期と比べて8億2,600万ユーロの増加、顧客向け融資残高の65bp相当でした。当グループのマクロ経済シナリオを更新した結果、予想損失の事前引当が3億2,900万ユーロ増加しました（部門別組織を含む）。メインシナリオでは、緩やかな景気回復を予測し、新たな危機が起きない限り、GDP水準は2022年半ばまでに2019年と同等に戻ると想定し、復興計画の影響も加味しています。なお、予想損失の事前引当水準は、BNPパリバのポートフォリオの質や堅実な先見的风险管理を反映しています。

これらを受けて、当グループの当四半期の営業利益は28億9,000万ユーロとなり、前年同期比8.8%の減益でした。

¹ 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-3.4%

³ 特に特定の事業（とりわけCIB部門）の再編に関連

⁴ 特にバンクウェストとCIB部門に関する適応策

⁵ フランス国内リテール・バンキング、BNLパンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング

⁶ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-4.2%

営業外項目は、当四半期に2億3,600万ユーロの利益となり、前年同期の2億900万ユーロの利益を上回りました。当四半期の営業外項目には、建物売却による譲渡益（+8,300万ユーロ）が反映されています。ちなみに、前年同期の営業外項目には、インドのSBI Life持分の2.5%売却による譲渡益および残部の連結範囲からの除外による影響（+6億1,200万ユーロ）、バンクウエストののれんの一部減損損失（-5億ユーロ）が含まれていました。

税引前利益は、当四半期に31億2,600万ユーロとなり（前年同期は33億7,700万ユーロ）、前年同期比7.4%の減益でした。

当四半期の法人税率は平均で24.9%でした。

以上から、株主帰属純利益は当四半期に22億9,900万ユーロとなり、前年同期比6.8%の減益でした。なお、一時項目による影響を除くと23億6,000万ユーロ、9.9%の減少です。

普通株式等Tier 1比率は、2020年6月末現在12.4%で、2020年3月末比で40bp上昇しました。この上昇には、当四半期中の資本の内部創出（配当性向50%を考慮後）、規制変更の影響（自己資本規制の修正「quick fix」）が反映されています。バランスシートの規模はやや縮小しました（2020年3月末比で1.8%減）。当グループの即時利用可能な余剰資金は4,250億ユーロに上っており、これは短期資金調達との関係で1年超の余裕資金があることを意味します。レバレッジ比率¹は4.0%でした。

1株当たり有形純資産額²は2020年6月末現在で71.8ユーロに達し、2008年12月末からの年平均成長率は7.3%に相当し、当グループが景気局面を通して継続的に企業価値を創造する能力を有していることを証明しています。

当グループはデジタル変革を継続すると共に、内部統制およびコンプライアンス体制の強化も行っています（健康危機はコンプライアンスのプロセスやプロジェクトの進捗に重大な影響を及ぼしていません）。また、意欲的な社会的責任方針を推進し続けており、その一環として脱石炭火力発電に対するコミットメントを強めています。これにより、石炭火力発電に関する全ての融資の停止期限をEU域内とOECD加盟国については2030年、その他の地域については2040年に設定し、石炭のバリューチェーン全体（採鉱、専用インフラ、発電を含む）をカバーしています。当グループは自らの「石炭火力発電」方針および「鉱業」方針（2020年7月更新）に則り、石炭火力発電施設の開発を進めている企業、上記期限に向けた脱石炭を計画していない企業、石炭火力発電のインフラ企業、石炭を専門的に取り扱う卸売企業にはもはや融資を行いません。この分野における当グループの活動は高く評価され、ユーロマネー誌によって今年再び「Best Bank for Western Europe for Corporate Responsibility（企業の社会的責任に関する西欧最優秀銀行）賞」を授与されました。

一方、当グループは英国のEU離脱（ブレグジット）移行期間が終了する2020年12月に向けて既に準備を行っています。規制面では、英国での事業継続の認定を受けるため、欧州中央銀行（ECB）や英規制当局に求められている措置を全て講じています。事業面では、ブレグジットの主な影響はEU共通の金融免許「単一パスポート」の失効やECBの監督に対する準拠観測から生じるとみられます。特に、英国からEU域内の顧客に金融サービスを販売することは認められない見通しです。英国では、フロントオフィスの役割（主に営業職）とそれに伴う組織体制はこうした措置から影響を受けています。欧州大陸では、約400の新規ポジション（フロントオフィスは160、サポート機能は240で主にIT）が生まれており、6月末現在、このうち260が埋まっています。

¹ 2014年10月10日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

² 再評価後。2019年度の利益を剰余金に計上。



2020年度上半期において、当グループの営業収益は225億6,300万ユーロに上り、前年同期と比べて0.9%の増収となりました。

事業部門の営業収益は前年同期比1.1%の増収¹でした。これを部門別にみると、国内市場部門²では、低金利環境がリテール・バンキング業務に悪影響を及ぼし、健康危機の余波が特に手数料収入に響き、融資残高の増加や専門的金融業務（特に個人投資家部門）の継続的な伸びによる増収効果では補い切れず、3.2%の減収となりました。国際金融サービス部門では、特に低金利環境がリテール・バンキング業務に及ぼした影響、健康危機による事業の落ち込み、金融市場下落の影響（とりわけ保険部門）があり、5.4%の減収でした³。CIB部門では、3事業が全て増収を記録し、15.9%の増収を果たしました。

営業費用は、グループ全体で154億9,500万ユーロで、前年同期比2.4%減少しました。当上半期の営業費用には、一時項目として、事業再編費用⁴と事業適応費用⁵（7,600万ユーロ）、IT強化費用（7,900万ユーロ）、健康危機関連の寄付とスタッフ安全対策費用（8,600万ユーロ）が合計2億4,000万ユーロ含まれています（前年同期は5億4,200万ユーロ）。2020年度事業計画で公表したように、事業変革費用はゼロでした（前年同期は3億9,000万ユーロ）。

営業費用の中には、国際財務報告基準解釈指針委員会（IFRIC）第21号「賦課金」（以下、「IFRIC21」）の適用により計上された12億8,400万ユーロが含まれています（前年同期は11億2,800万ユーロ）。これは2020年度に納付する税金・拠出金（単一破綻処理基金への拠出金を含む）のほぼ全額に相当します。

一方、事業部門の営業費用は前年同期比横ばいでした。これを部門別にみると、国内市場部門では、リテール・バンキング業務⁶で比較的顕著に減少（-2.5%）したことが奏功し、専門的金融業務の事業開発関連のコスト増を補い、全体では1.5%減少しました。国際金融サービス部門ではコスト節減計画の進展により1.3%減少し⁷、CIB部門では事業開発に伴って3.4%増加しました。CIB部門では高水準の正のジョーズ効果が生み出されました（+12.5ポイント）。

営業総利益はグループ全体で70億6,800万ユーロとなり、前年同期比9.0%の増益でした（前年同期は64億8,400万ユーロ）。事業部門の営業総利益は前年同期比3.2%増でした。

リスク費用は28億7,300万ユーロ、顧客向け融資残高の66bp相当で、前年同期比で14億8,300万ユーロ増加しました。費用増は特に医療機器関連の予想損失事前引当の影響の反映です。

これらを受けて、グループ全体の当上半期の営業利益は41億9,500万ユーロとなり、前年同期（50億9,400万ユーロ）と比べ、17.6%の減益でした。事業部門の営業利益は20.6%減でした。

営業外項目は、当上半期に7億2,600万ユーロの利益となり、前年同期の9億6,600万ユーロの利益を下回りました。当上半期の営業外項目には、複数の建物売却による譲渡益（+4億6,400万ユーロ）が反映されています。ちなみに、前年同期の営業外項目には、一時項目として、インドのSBI Life持分16.8%売却による譲渡益および残部の連結範囲からの除外による影響（+14億5,000万ユーロ）、のれんの減損損失（-8億1,800万ユーロ）が含まれていました。

税引前利益は、当上半期に49億2,100万ユーロとなり、前年同期（60億6,000万ユーロ）と比べて18.8%の減益でした。

当上半期の法人税率は平均で24.6%でした。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+1.9%

² 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

³ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-4.2%

⁴ 特に特定の事業（とりわけCIB部門）の再編に関連

⁵ 特にバンクウェストとCIB部門に関連

⁶ フランス国内リテール・バンキング、BNLパンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング

⁷ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-0.8%



以上から、株主帰属純利益は当上半期に35億8,100万ユーロとなり、前年同期比18.4%の減益でした。なお、一時項目による影響を除くと34億3,500万ユーロとなり、18.4%の減少です。

有形自己資本利益率（ROTE）は当上半期に年率8.7%（再評価¹前）となり、業績の底堅さを反映しました。健康危機に見舞われる厳しい環境ながら、当グループの多角的かつ統合的なビジネスモデルの盤石さが貢献しています。

*
* *

¹ 2019年度の利益を剰余金に計上



リテール・バンキング&サービス事業

国内市場部門

国内市場部門の事業活動は当四半期も拍車がかかりました。当グループは健康危機下にあるお客様の支援のため力強く結集しました。特に国内市場部門は政府保証融資を7万件近く実行したのみならず、25万件近い支払猶予を個人顧客（25%）および法人顧客（75%）の両セグメントで行いました¹。リテール・バンキング業務では事業活動が当四半期中に大きく回復し、カード決済や個人向け融資が目覚ましく復調しました。また、特にアルバルとリーシング・ソリューションズも堅調でした。融資残高は前年同期比5.3%増え、リテール・バンキング業務（特にフランスとベルギー）および専門的金融業務（アルバル、リーシング・ソリューションズ）で貸出が順調に伸びました。預金残高は各国全てで前年同期比11.3%増加しました。プライベート・バンキング業務では高水準の資金純流入が見られました（9億ユーロ）。

また、ロックダウン措置の最中から終了後にかけてデジタルツールの利用が加速を続け、モバイルアプリをアクティブに利用する顧客²は前年同期比27.3%増加し（550万人へ）、モバイルアプリへの接続回数は1日当たり400万回近傍に上っています。

営業収益³は、当四半期に37億2,100万ユーロとなり、前年同期比5.2%の減収でした。この減少は低金利環境と健康危機の影響（特に手数料収入に対する余波）を反映しており、融資残高の増加や専門的金融業務（特にドイツのConsorsbank）の力強い事業活動による増収効果でも補えませんでした。

営業費用³は、当四半期に24億4,600万ユーロとなり、前年同期比2.8%減でした。営業費用はリテール・バンキング業務⁴では比較的顕著に減少しましたが（-3.6%）、専門的金融業務では小幅増でした（+1.0%）。

これらを受けて、営業総利益³は当四半期に12億7,600万ユーロとなり、前年同期比9.4%の減少でした。

リスク費用³は、当四半期は3億3,100万ユーロでした（前年同期は2億1,400万ユーロ）。特に、予想損失の事前引当（6,700万ユーロ）の影響を反映しました。

以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益⁵は当四半期に8億8,400万ユーロとなり、前年同期比21.2%の減益でした。

2020年度上半期において、営業収益³は76億3,500万ユーロとなり、前年同期比3.2%の減収でした。長引く低金利環境と健康危機の影響（特に手数料収入に対する余波）が生じ、融資残高の増加や専門的金融業務の力強い事業活動（特にドイツの個人投資家部門での急増）による増収効果でも補えませんでした。営業費用³は54億1,500万ユーロで、前年同期比1.5%減でした。特にリテール・バンキング業務⁴の費用減が比較的顕著で（-2.5%）、専門的金融業務では事業の伸びに伴って小幅なコスト増が生じました。営業総利益³は22億1,900万ユーロで、前年同期比7.0%の減益でした。リスク費用³は6億4,500万ユーロで（前年同期は5億2,100万ユーロ）、特に予想損失の事前引当の影響が含まれています。以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益⁶は当上半期に14億5,800万ユーロとなり、前年同期比15.7%の減益でした。

¹ 欧州銀行監督機構（EBA）の2020年6月末時点の基準—金額に占める比率

² モバイルアプリに月1回以上接続した顧客（2020年度第2四半期の平均）。範囲は国内市場部門のリテール・バンキング支店またはデジタルバンクの個人顧客、法人顧客、プライベート・バンキング顧客（ドイツ、オーストリア、Nickelを含む）。

³ フランス（PEL/CELの影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの100%を含む

⁴ フランス国内リテール・バンキング、BNLパンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング

⁵ PEL/CELの影響を除く：2020年度第2四半期は+1,500万ユーロ；2019年度第2四半期は+2,800万ユーロ

⁶ PEL/CELの影響を除く：2020年度上半期は+200万ユーロ；2019年度上半期は+3,000万ユーロ



フランス国内リテール・バンキング (FRB)

FRBはお客様へのサービス提供に向け、力強く結集しました。政府保証融資を2020年6月末時点で5万7千件近く行い（総額約150億ユーロ）、また、フランスの中小企業の発展を支えるべく株式投資の2024年までの余地を40億ユーロに倍増しました。FRBは顧客間でプレゼンスを高め、個人顧客（対面接客またはリモート接客）が27%増加しました。

これにより、FRBは事業の推進力を維持しました。事業活動は4月の底を経て回復し、その結果、四半期後半には個人顧客向けのローン組成が加速し、カード決済も回復しました。融資残高は、法人向け貸出の増加が寄与し、政府保証融資を除いても前年同期比8.8%増、預金残高は16.7%増でした。責任預金（responsible savings）もプライベート・バンキングで急増し、残高は60億ユーロに達しました（2019年12月末比+52%）。Hello bank!の顧客数も力強く増加しました（2019年6月末比+22.7%）。

営業収益¹は、当四半期に14億800万ユーロとなり、前年同期比11.8%の減収でした。純利息収入¹は、健康危機と低金利環境の影響に伴い、専門的金融業務を手掛ける子会社からの寄与が低下し、利鞘の拡大では補えず、12.9%減でした。手数料収入¹は10.4%減で、ロックダウン措置の影響に加え、特に決済手数料やキャッシュマネジメント手数料の減少が響きました。

営業費用¹は、推進中のコスト最適化策が奏功し、10億7,400万ユーロと前年同期比2.5%減でした。

これらを受けて、営業総利益¹は当四半期に3億3,400万ユーロとなり、前年同期比32.4%の減益でした。

リスク費用¹は、当四半期は9,000万ユーロ（前年同期比700万ユーロの小幅増）、顧客向け融資残高の18bp相当でした。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRBの税引前利益²は当四半期に2億1,200万ユーロとなり、前年同期比43.4%の減益でした。

2020年度上半期において、FRBの営業収益¹は29億3,200万ユーロとなり、前年同期比8.1%減でした。純利息収入¹は、高水準だった前年同期に比べ11.4%の減少でした。専門的金融業務を手掛ける子会社からの寄与が低下し、また、低金利環境の影響もあり、融資残高の増加では補えませんでした。手数料収入¹は3.9%減でした。金融手数料は急増したものの、健康危機の影響によりキャッシュマネジメント手数料と決済手数料が大幅に減少し、相殺されました。営業費用¹は22億4,000万ユーロで、コスト最適化策が奏功し、前年同期比2.1%減でした。これらを受けて、営業総利益¹は6億9,200万ユーロとなり、前年同期に比べ23.4%減少しました。リスク費用¹は1億9,100万ユーロで、前年同期から3,600万ユーロ増加し、顧客向け融資残高の19bp相当でした。以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRBの税引前利益³は当上半期に4億3,400万ユーロとなり、前年同期比36.1%の減益でした。

¹ フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

² PEL/CEL の影響を除く：2020年度第2四半期は+1,500万ユーロ；2019年度第2四半期は+2,800万ユーロ

³ PEL/CEL の影響を除く：2020年度上半期は+200万ユーロ；2019年度上半期は+3,000万ユーロ

BNLバンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

BNL bcは、健康危機の状況下、お客様の支援に向け、力強く結集しました。BNL bcのお客様のうち、2020年6月末時点で29,000近いお客様が支払猶予の恩恵を受けました¹。政府保証融資は5~6月に増え、6月末時点で約12,000件の融資が実施されています。

当四半期はロックダウン措置に見舞われましたが、後半には状況回復も見られ、BNL bcの事業活動は活発化しました。預金残高は前年同期比14.8%増でした。オフバランス貯蓄商品は2019年6月末比で1.8%増加し、貯蓄型生命保険が伸びましたが（前年同期比+4.4%）、ミューチュアルファンドの運用資産は、株式市場の2019年6月末比のバリュエーションの変化を受けて、減少しました。融資残高は前年同期比で1.5%減²ですが、不良債権を除くと3%以上増加しました。BNL bcは法人顧客の市場シェアを着実に高め続け（4年間で1.0ポイント引き上げ、6.2%³）、堅実なリスクプロファイルも維持しています（中小企業に対する2019年末のエクスポージャーの70%以上が信用の質が「良好」）⁴。

営業収益⁵は、当四半期は6億4,900万ユーロ、前年同期比5.1%減でした。純利息収入⁵は、低金利環境の影響、および、より有利なリスクプロファイルを伴う顧客へのシフトにより、4.1%の減少でした。手数料収入⁵は、取引高の減少により、前年同期比6.7%の減収でした。

営業費用⁵は、当四半期は4億2,200万ユーロと前年同期比2.5%減少しました。この費用減は、コスト節減策や事業適応策（イタリアの年金改革「クオータ100」を活用した早期退職制度）の効果を反映しています。

これらを受けて、営業総利益⁵は当四半期に2億2,700万ユーロとなり、前年同期比9.6%減少しました。

リスク費用⁵は1億2,200万ユーロとなり、前年同期比13.9%増、顧客向け融資残高の64bp相当でした。前四半期比ではほぼ横ばいで、健康危機に伴う予想損失事前引当の必要性により、減少傾向は中断しています。

以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当四半期に9,500万ユーロとなり、前年同期比28.8%の減益でした。

2020年度上半期において、BNL bcの営業収益⁵は13億800万ユーロ、前年同期比3.8%の減収でした。純利息収入⁵は、低金利環境の影響に加え、より有利なリスクプロファイルを伴う顧客へのシフトもあり、4.0%減でした。手数料収入⁵は、特に金融手数料の減少が響き、前年同期比3.5%の減収でした。営業費用⁵は8億8,700万ユーロ、前年同期比1.8%減でした。この費用減は、コスト節減策や事業適応策（イタリアの年金改革「クオータ100」を活用した早期退職制度）の効果を反映しています。これらを受けて、営業総利益⁵は4億2,100万ユーロとなり、前年同期比7.8%の減益でした。リスク費用⁵は2億4,200万ユーロで、健康危機関連の予想損失事前引当の影響にもかかわらず、前年同期比で改善を続け（2019年度に不良債権ポートフォリオを売却した影響により前年同期比-11%）、顧客向け融資残高の64bp相当でした。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当上半期に1億5,800万ユーロとなり、前年同期比2.9%の減益でした。

¹ EBAの2020年6月末時点の基準

² 融資残高は日次平均残高

³ 出所：イタリア銀行協会

⁴ 社内の12段階評価で1~6段階

⁵ イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む



ベルギー国内リテール・バンキング (BRB)

BRBは、健康危機の状況下、経済の下支えやお客様の支援に極めて積極的に取り組んでいます。2020年6月末現在、40,000近いお客様が支払猶予の恩恵を受けています¹。また、お客様との契約数も増えており、例えば法人顧客の94%が危機対応ニーズの評価のため契約を結んでいます。

BRBは当四半期を通して精力的な商業活動を維持しました。融資残高は住宅ローンと法人向け貸出の高い伸びが寄与し、前年同期比4.6%増加しました。預金残高は法人・個人預金の力強い伸びに支えられ、5.4%増でした。オフバランス貯蓄商品は2019年6月末比で1.3%増加しています。また、カード決済数は6月末にロックダウン前の水準を上回り、事業活動回復の兆しとなりました。

ただし、営業収益²は当四半期に8億3,500万ユーロとなり、前年同期比4.9%の減収でした。純利息収入²は7.1%減でした。低金利環境のマイナス影響に加え、専門的金融業務を手掛ける子会社からの寄与が弱まり、融資残高の増加によるプラス効果では補えませんでした。手数料収入²は、特に金融手数料が底堅く、前年同期比1.3%の増収でした。

営業費用²は、コスト節減策のほか、支店網の最適化策の継続も奏功し、当四半期は4億9,900万ユーロと前年同期比6.8%の大幅減でした。1.9ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、営業総利益²は当四半期に3億3,600万ユーロとなり、前年同期比1.9%の減益でした。

リスク費用²は、当四半期は8,000万ユーロ、顧客向け融資残高の27bp相当でした（前年同期は300万ユーロの引当金戻入益を計上）。費用増の主因は、予想損失の事前引当と特定の債権でした。

以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRBの税引前利益は当四半期に2億4,300万ユーロとなり、前年同期比25.2%減でした。

2020年度上半期において、BRBの営業収益²は17億2,000万ユーロ、前年同期比4.1%の減収でした。純利息収入²は、低金利環境のマイナス影響に加え、専門的金融業務を手掛ける子会社からの寄与が弱まり、融資残高の増加によるプラス効果では補い切れず、前年同期比8.2%減でした。手数料収入²は、金融手数料の増加が寄与し、前年同期比8.1%の増収でした。営業費用²は、コスト節減策が効果を発揮し、13億2,900万ユーロと前年同期比3.6%減少しました。これらを受けて、営業総利益²は3億9,100万ユーロとなり、前年同期比5.6%減でした。リスク費用²は1億3,400万ユーロでした（前年同期は3,100万ユーロ）。この費用増の要因は、主に健康危機関連の予想損失の事前引当と当四半期の特定の債権でした。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRBの税引前利益は当上半期に2億3,900万ユーロとなり、前年同期比31%減でした。

¹ EBAの2020年6月末時点の基準

² ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む

その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテール・バンキング）

国内市場部門の専門的金融業務の事業推進はいずれも極めて順調で、事業活動が4月の底を経て急回復していることを裏付けました。アルバルでは、ファイナンスフリートの契約台数が当四半期に前年同期比7.2%増え、当上半期には前年同期比2.5%増え、力強い伸びでした。6月の受注回復に加え、お客様へのサポート提供（特に契約延長）が奏功しました。リーシング・ソリューションズでは、ファイナンスリース残高が前年同期比1.1%増加¹しました。6月には物流・IT機器のファイナンスリース需要が力強く回復し、前月比40.7%増を記録しました。個人投資家部門では、市場の乱高下を背景に、特にドイツの事業推進が目覚ましく、取引注文数は倍増し（前年同期比+102%）、運用資産残高も2019年6月末の水準から10.5%増加しました。Nickelはフランスで躍進を続け、口座開設数が170万口座に迫り（2019年6月末比+27.0%）、6月には新規口座開設数が月次記録を更新しました（38,345口座）。ルクセンブルク国内リテール・バンキング（LRB）では、住宅ローンおよび法人向け貸出が順調に伸びたことから、融資残高が前年同期比10.4%増加しました。預金残高は2.9%減でした。LRBでは徐々に正常な事業活動に戻りつつあり、4月以降、クレジットカード取引やローン申込件数が大きく回復しています。

これら5つの業務部門合計の営業収益²は当四半期に8億2,900万ユーロに上り、全体として前年同期比8.2%増加しました。特に個人投資家部門の営業収益の伸びが極めて力強く、とりわけドイツのConsorsbankが堅調でした。

営業費用²は、当四半期は4億5,100万ユーロ、前年同期比1.0%増でしたが（コスト節減策で抑制しましたが、事業開発費用が嵩みました）、7.2ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました。

リスク費用²は、当四半期は合計4,000万ユーロでした（前年同期は2,700万ユーロ）。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら5つの業務部門の税引前利益は当四半期に3億3,500万ユーロに達し、前年同期比15.8%の大幅増益を果たしました。

2020年度上半期において、5つの業務部門の営業収益²は16億7,500万ユーロに上り、全体として前年同期比8.6%の増収でした。いずれの業務部門も事業活動が高水準で、特にNickelと個人投資家部門（とりわけドイツのConsorsbank）が好調でした。営業費用²は9億5,900万ユーロ、前年同期比3.2%増でしたが（コスト節減策で抑制しましたが、事業開発費用が嵩みました）、5.4ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。リスク費用²は総額7,800万ユーロでした（前年同期は6,300万ユーロ）。以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら5つの業務部門の税引前利益は当上半期に6億2,700万ユーロとなり、前年同期比15.8%の大幅増益を果たしました。

*
* *

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除き、子会社の移管を除く

² ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む



国際金融サービス部門

国際金融サービス部門は、ロックダウン措置の開始に伴う事業活動の低迷を経て、当四半期後半にモメンタムを回復しました。貸出の伸びは全般的に堅調でした。融資残高はローン組成の回復と共に前年同期比1.7%増加し、6月の個人向け新規ローンの組成は4月（事業活動の底）と比べ95%増加しました。当部門への資金純流入はよく持ちこたえましたが（16億ユーロ増）、運用資産は株式市場のバリュエーション低下の影響を受けました（運用資産残高は1兆850億ユーロ、2019年6月末比0.3%減）。また、不動産管理部門は4～5月は実質的に休止状態でしたが、当四半期後半の建設現場（土地開発・取引）の再開に伴って再始動しています。

国際金融サービス部門は、危機の最中、力強く結集し、お客様の支援、経済の下支えを行いました。政府保証融資については2万3千件近く実施しました。パーソナル・ファイナンスでは、4月に顧客契約数が前年同月比でほぼ倍増しており、先行的なリスク管理のためアフターセールや回収に配分するリソースを拡大しました。

国際金融サービス部門の当四半期の営業収益は40億2,700万ユーロ、前年同期比5.5%減¹でした。国際リテール・バンキング業務は堅調で、当四半期の市場の回復は保険部門の営業収益に好影響を及ぼしましたが、健康危機の打撃を被ったパーソナル・ファイナンスおよび不動産管理部門の減収を一部相殺するに留まりました。

営業費用は、継続的なコスト節減策や事業効率の向上が奏功し、当四半期は24億1,400万ユーロ、前年同期比5.7%減²でした。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に16億1,300万ユーロとなり、前年同期比5.3%減少しました。

リスク費用は7億6,500万ユーロで、前年同期に比べて3億7,500万ユーロ増加しました。費用増は特に予想損失の事前引当の影響でした。

以上から、国際金融サービス部門の当四半期の税引前利益は9億6,000万ユーロとなり、前年同期比33.4%減少しました。

2020年度上半期において、国際金融サービス部門の営業収益は80億8,000万ユーロとなり、前年同期比5.4%の減収でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-4.2%）。低金利がリテール・バンキング業務に与えた影響、健康危機に伴う事業の落ち込み（特にパーソナル・ファイナンスと不動産管理部門）、金融市場下落の余波（特にアセット・マネジメント部門と保険部門）が重石となりました。営業費用は、コスト節減計画の推進が寄与し、51億8,000万ユーロと1.3%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-0.8%）。これらを受けて、営業総利益は29億ユーロとなり、前年同期比12.0%減少しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-9.8%）。リスク費用は15億500万ユーロで、特に予想損失の事前引当により、前年同期と比べて6億8,600万ユーロ増加しました。以上から、国際金融サービス部門の当上半期の税引前利益は15億9,500万ユーロとなり、前年同期比41.4%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-39.3%）。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-3.4%

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-4.2%

パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンス事業では、健康危機の余波で融資残高が前年同期比で小幅減を記録しましたが（-0.7%¹）、ローン組成が急回復し（特に自動車ローン）、提携企業の販売店も再開しました。ローン組成は4月の底を経て6月に3月の水準へ復調しています。

パーソナル・ファイナンスは、健康危機に対応し、お客様を積極的に支援しています。例えば、今回の危機の勃発以降、アフターセールスや回収に配分するリソースを約50%拡大しています。また、支払猶予を約47万件²認めており、この恩恵を受けた最初の債権の支払復帰は満足のいく水準です。加えて、提携企業のモニタリングも強化しています。

パーソナル・ファイナンスのリスクプロファイルはその商品構成ポートフォリオから恩恵を得ており、近年、このポートフォリオはリスク低減方向に変化しています。この推進により、クレジットカードポートフォリオが占める比率は2016～20年に18%から12%へ低下し、自動車ローンポートフォリオの比率は同期間に20%から38%へ上昇しています。また、地域別のポートフォリオは欧州大陸に集中しており、米国のエクスポージャーは現在ゼロで、英国は7%に留め、主体は自動車ローンです。

パーソナル・ファイナンスの営業収益は、当四半期は13億200万ユーロとなり、前年同期比9.6%減でした。健康危機の悪影響、特に提携企業の販売店閉鎖が減収につながりました。

営業費用は6億4,100万ユーロで、コスト節減の取り組み継続が奏功し、前年同期比8.6%減でした。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に6億6,100万ユーロとなり、前年同期比10.5%の減益でした。

リスク費用は、予想損失の事前引当4,100万ユーロ（融資残高の17bp相当）が加わり、当四半期は4億5,000万ユーロでした。引当金戻入益の計上により低水準だった前年同期に比べ1億6,100万ユーロの増加でした。

以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当四半期に2億1,000万ユーロとなり、前年同期比53.7%減でした。

2020年度上半期において、パーソナル・ファイナンスの営業収益は27億7,700万ユーロとなり、前年同期比3.1%の減収でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-0.6%）。特に健康危機の影響、とりわけ提携企業の4～5月の販売店閉鎖が響きました。営業費用は、コスト節減の取り組み継続が寄与し、14億2,900万ユーロと前年同期比2.9%減でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-1.0%）。ジョーズ効果は、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと正でした。これらを受け、営業総利益は13億4,800万ユーロ、前年同期比3.3%の減益でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-0.1%）。リスク費用は、特に予想損失の事前引当の影響により前年同期比4億1,400万ユーロ増え、10億3,200万ユーロでした。以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当上半期に3億2,300万ユーロとなり、前年同期比59.3%減少しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと-58.5%）。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+1.6%

² EBAの2020年6月末時点の基準

欧州・地中海沿岸諸国

欧州・地中海沿岸諸国部門では当四半期に融資・預金残高が前年同期比で増加しました。融資残高は4.5%増え¹、特に法人顧客セグメント（主にトルコ）の増加が顕著でしたが、ポーランドとモロッコでは公衆衛生対策関連で減少しました。預金残高は9.4%増え¹、各国とも増加しました（特にトルコ）。

当四半期の事業活動は、ロックダウン措置の解除に伴って徐々に上向きしました。ローン組成は4月の底を経て回復しました（4月から6月の間に141%増）。また、非接触型決済がトルコとポーランドで力強い復調を記録し、カード決済も正常レベルに復帰しました。

欧州・地中海沿岸諸国部門ではデジタルツールの使用促進を継続しており、アクティブなデジタル顧客は2020年6月末時点で350万人に達しました（2019年6月末比+43.5%）。公的機関による支援措置の実施も効率的なデジタルツールの迅速な開発で容易になっており、当部門はポーランドでは要請の100%、トルコでは69%をオンライン化しています。

欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益²は、当四半期に6億900万ユーロとなり、前年同期比で2.4%減少¹しました。低金利環境の影響や一部諸国の手数料上限の存在が収益を抑制しましたが、融資残高の増加や利鞘の拡大で一部相殺されました。特にポーランドが好調でした。

営業費用²は、当四半期は4億1,400万ユーロとなり、特にトルコで高水準の賃金ドリフトが継続したにもかかわらず前年同期比0.8%増¹に留まりました。

これらを受けて、営業総利益²は当四半期に1億9,600万ユーロとなり、前年同期比8.5%減¹でした。

リスク費用²は、当四半期は1億4,300万ユーロで、前年同期比46.9%増加しました。大幅増の要因は予想損失の事前引当（4,900万ユーロ）でした。

以上から、トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当四半期に7,900万ユーロとなりました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合、リスク費用の増大により前年同期比44.0%減、一方、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合、為替の不利な影響により同60.0%減でした。

2020年度上半期において、欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益²は12億7,400万ユーロ、前年同期比0.3%の減収¹でした。融資残高の増加や利鞘の拡大による増収効果は、低金利環境の影響や一部諸国の手数料上限で相殺されました。営業費用²は、高水準の賃金ドリフトの継続（特にトルコ）の結果、9億400万ユーロ、前年同期比3.6%の増加¹でした。リスク費用²は、特に予想損失の事前引当の影響により、2億2,900万ユーロ（前年同期比31.8%増）、顧客向け融資残高の113bp相当でした。

以上から、トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分し、かつ、トルコリラの大幅下落を勘案すると、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当上半期に2億2,300万ユーロとなり、前年同期比28.9%の減益¹でした。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² トルコおよびポーランドの国内プライベート・バンキングの100%を含む



バンクウエスト

バンクウエストの事業活動は持ちこたえました。融資残高は前年同期比4.3%増加¹し、特に法人向け貸出が力強く伸び、有担保設備ローンの組成が活発でした。バンクウエストは米国連邦政府の中小企業支援策「ペイチェック・プロテクション・プログラム（PPP）」に積極的に参画しており、2020年6月末時点で18,000件近い融資、総額約30億ドルを実行しています。預金残高は、顧客預金²の大幅な伸び（+20.3%）を受け、19.2%増加¹しました。プライベート・バンキング業務の運用資産残高は2020年6月末時点で155億ドルに達し、2019年6月末比で4.1%増加¹しました。また、オンラインでの口座開設数も増加しました（前年同期比+5.6%）。

営業収益³は、当四半期に6億2,900万ユーロとなり、前年同期比3.2%の増収¹でした。低金利環境の影響と手数料収入の寄与低下は生じたものの、特に融資残高の伸びによる増収効果が上回りました。

営業費用³は、コスト節減策が奏功し、4億3,200万ユーロとなり（前年同期比2.4%減¹）、5.6ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合）。

これらを受けて、営業総利益³は当四半期に1億9,700万ユーロとなり、前年同期比17.8%の増益¹でした。

リスク費用³は1億6,700万ユーロで、前年同期に比べ1億6,500万ユーロの増加、顧客向け融資残高の115bp相当でした。費用増の要因は予想損失の事前引当です（1億2,800万ユーロ、88bp相当）。

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）に配分した後、バンクウエストの税引前利益は当四半期に2,200万ユーロとなりました。前年同期比は、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた場合は85.6%減、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含めた場合は85.7%減でした。

2020年度上半期において、バンクウエストの営業収益³は12億4,000万ユーロで、前年同期比3.3%の増収¹でした。低金利環境の影響はあったものの、融資残高の増加、利鞘の拡大、預金金利の見直しによる増収効果が上回りました。営業費用³は、コスト節減策が奏功し、8億9,700万ユーロに留まり（0.4%減¹）、3.9ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました。これらを受けて、営業総利益³は3億4,300万ユーロ、前年同期比18.2%の増益でした。リスク費用³は、主に予想損失の事前引当を反映し、前年同期（2,100万ユーロ）から大幅に増え、2億2,900万ユーロ（顧客向け融資残高の81bp相当）でした。以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）に配分した後、バンクウエストの税引前利益は当上半期に1億ユーロとなり、前年同期比60.6%減¹でした。

保険およびウェルス&アセット・マネジメント

保険およびウェルス&アセット・マネジメント部門は高水準の資金純流入を記録しましたが、2019年12月末に比べ、不利な市場動向の影響も被りました。運用資産残高⁴は2020年6月末現在で1兆850億ユーロに上りましたが、2019年12月末比で3.4%減でした。この減少要因は、2020年度第1四半期の金融市場の下落に伴うバリュエーション面の不利な影響（409億ユーロ）と為替面の不利な影響（87億ユーロ）です。資金純流入は108億ユーロで、ウェルス・マネジメント部門では欧州・アジアの大口顧客から高水準の資金純流入があり、アセット・マネジメント部門でも旺盛な資金純流入を記録し、保険部門では運用資産が小幅減少したもののユニットリンク保険に高水準の資金流入（+43%）が見られました。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² 財務活動に関わる預金を除く

³ 米国プライベート・バンキングの100%を含む

⁴ 分配金を含む

2020年6月末現在、運用資産残高¹の部門別内訳は以下の通りでした：アセット・マネジメントは4,560億ユーロ（Real Estate Investment Managementの290億ユーロを含む）、ウェルス・マネジメントは3,770億ユーロ、保険部門は2,520億ユーロ。

保険部門は順調な事業推進の恩恵を受けました。パートナーシップの締結を引き続き推し進め、当四半期中に10カ国、20以上のパートナーシップの締結に至りました。この間に事業活動は徐々に回復しました。当部門では事業中断リスクをカバーする保険をフランスで取り扱っておらず、フランス以外での取り扱いもごくわずかです。

保険部門の営業収益は、当四半期は8億2,800万ユーロに上り、前年同期比6.2%の増収でした。期中の金融市場の回復に伴って会計上で増収効果が生じましたが、保険の支払請求で一部相殺されました。営業費用は、コスト抑制が寄与し、3億3,900万ユーロ（6.0%減）に留まりました。税引前利益は、当四半期は5億4,800万ユーロで、前年同期比18.9%の増益でした。

ウェルス&アセット・マネジメント部門は発展計画を継続しました。ウェルス・マネジメント部門は「Best Private Bank, Western Europe」²を授与され、デジタルサービスの提供は「Best Private Bank Digital Customer Experience, Europe」や「Best Private Bank Robo-advisory Services, Global」³として認められました。資金純流入は高水準で、特に欧州・アジアの大口顧客からの資金流入が旺盛でした。アセット・マネジメント部門では、マネー・マーケット・ファンドへの資金流入が欧州を中心に旺盛で（当四半期に30億ユーロ）、また、ダイナミックファンド、テーマ型ファンド、社会的責任ファンドへの力強い資金流入も達成しました（中長期の社会的責任投資ファンドに年初来40億ユーロ）。当部門の社会的責任投資の取り組みは新たな受賞で認められ、例えばアジアの「ESG Asset Management Company of the Year」を2年連続で授与されました。不動産管理部門の事業活動は、建設現場の閉鎖、不動産開発・販売の停止、アドバイザー業務の途絶により、当四半期は大きく低迷しましたが、ロックダウン措置が四半期後半に解除されると事業は徐々に回復しました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、当四半期に6億7,800万ユーロとなり、前年同期比14.6%の減収でした。この要因は、ウェルス・マネジメント部門では低金利環境が純利息収入に及ぼした影響、アセット・マネジメント部門では市場のバリュエーションが不利に作用した影響、不動産管理部門では健康危機が事業に及ぼした強い打撃でした。営業費用は、当四半期は合計6億100万ユーロ、前年同期比4.9%減で、不動産管理部門の経費急減に加え、事業変革計画の効果（特にアセット・マネジメント部門）から恩恵を受けました。以上から、国内市場部門、トルコ、ポーランド、および米国からプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当四半期に1億200万ユーロとなり、前年同期比42.4%の減益でした。

2020年度上半期において、保険部門の営業収益は14億700万ユーロとなり、前年同期比14.9%の減収でした。この要因には金融市場の下落に伴う会計上の影響も含まれています（特定のポートフォリオは2020年6月末時点で時価評価）。この悪影響は反転が可能で、当四半期中に既にかなり低減しています。営業費用は、コスト抑制が奏功し、7億3,200万ユーロ、2.4%の減少でした。以上から、保険部門の税引前利益は当上半期に7億4,400万ユーロとなり、前年同期比24.1%減でした。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の当上半期の営業収益は14億2,200万ユーロ、前年同期比8.9%の減収でした。ウェルス・マネジメント部門では手数料収入の増加が低金利環境の影響により相殺され、アセット・マネジメント部門では市場の影響が全体的に不利に働き、不動産管理部門では健康危機が打撃となりました。営業費用は12億4,300万ユーロ（前年同期比2.3%減）で、事業変革計画の効果（特にアセット・マネジメント部門）に加え、不動産管理部門の経費の大幅減も寄与しました。以上から、国内市場部門、トルコ、ポーランド、および米国からプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当上半期に2億400万ユーロとなり、前年同期比34.0%の減益でした。

*
* *

¹ 分配金を含む

² Digital Banker誌からの授与

³ Professional Wealth Management 誌からの授与

ホールセールバンキング (CIB) 部門

CIB部門は、健康危機の状況下、法人・機関投資家のお客様の具体的なニーズに対応し、顧客セグメント全体で事業活動を極めて高水準に維持しました。例えば、お客様のため、グローバルなシンジケートローンと債券・株式市場で当四半期に1,600億ユーロ以上を調達しています¹（前年同期比+91%）。

CIB部門は、シンジケートローン/債券市場/株式市場の円滑な機能発揮への貢献により、経済への資金供給における推進的役割を果たしています。当四半期の初めには、複数の事業活動に取り組んだことにより、危機のピーク時に閉ざされていた発行市場の再開につながりました。流通市場では、企業/ソブリン/個人の借入ニーズと投資家/機関投資家/資産運用会社のニーズの橋渡しにより、流動性の確保を図りました。CIB部門の事業活動の水準や優れた結集能力は危機のピーク時にも経済に役立っており、統合的なビジネスモデルの向上や事業ライン間の連携強化に向けて近年行ってきた戦略的選択の正当性を裏付けています。この一例は、法人顧客の資金ニーズへの対応を目的に2018年終盤に生み出した資金調達のためのキャピタルマーケット・プラットフォームです。また、CIB部門は多数の事業ラインにおけるデジタルプラットフォームの構築により可能になったお客様との相互交流の増加、および、事業効率の向上によって容易になった健康危機下の迅速な組織的適応からも恩恵を受けています。

CIB部門の営業収益は、顧客セグメント全てで事業活動を高水準に持続したことが奏功し、当四半期は41億2,300万ユーロと大幅増収を果たしました（前年同期比+33.1%）。営業収益は3部門全てで増加し、コーポレート・バンキング部門は15.0%増と好調で、グローバル・マーケット部門では63.5%増と力強く伸び、証券管理部門も3.6%の増収²でした。

コーポレート・バンキング部門の営業収益は、当四半期は12億5,800万ユーロと前年同期比15.0%増で、手数料収入はオリジネーション業務への注力が寄与し35%増加しました。営業収益は全地域で増え、中でも堅調だった地域は欧州で、アジアもかなりの好成果を上げました。トランザクションバンキング業務は当四半期は減収でした（前年同期比6%減）。キャッシュマネジメントは底堅かったものの、ロックダウン期間中のトレードファイナンスが落ち込みました。

コーポレート・バンキング部門は法人顧客の支援に向けて3月中旬から精力的・継続的に結集し、お客様との戦略的な対話を強化しています。これにより、EMEA地域のお客様を対象に830億ユーロ超の流動性を提供し、そのうち約50%を引き受け（10%未満³は販売参加）、また、市場で販売を手掛けた新発債は118銘柄で、金額は前年同期比で倍増しています⁴。当部門は、欧州における社債発行で首位に立ち、EMEA地域のシンジケートローンでもトップの座を占めています。また、EMEA地域のエクイティキャピタル市場では5位に位置します⁵（流通市場のアクセリレーテッド・ブックビルディングを除く）。これらを総合すると、EMEA地域の投資銀行業務において首位の欧州プレーヤーです⁶。

融資残高は1,730億ユーロ（前年同期比16.5%増⁷）、預金残高は1,780億ユーロ（26.9%増⁷）でした。

¹ 出所：Dealogic社、2020年6月末時点、ブックランナー、分担額

² 2019年度第2四半期の特定の取引の好影響を除く

³ 出所：内部資料、3月中旬から6月末までの取引総額、EMEA：欧州・中東・アフリカ

⁴ 出所：Dealogic社、2020年6月末時点、欧州の投資適格社債、3月中旬から6月末までの取引、ブックランナー、EMEA：欧州・中東・アフリカ

⁵ 出所：Dealogic社、2020年6月末時点、エクイティキャピタル市場のランキング（金額ベース）

⁶ 出所：Dealogic社、2020年6月末時点、投資銀行のランキング（収益ベース）

⁷ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

グローバル・マーケット部門の当四半期の営業収益は23億400万ユーロで、極めて高水準の顧客取引に伴い、前年同期比63.5%の急増でした。FICC¹業務は目覚ましい伸びを達成しました（前年同期比+153.8%）。株式・プライムサービス業務では、第1四半期終盤の危機的な状況の後、事業活動は緩やかに回復しましたが、営業収益は前年同期比52.8%減でした。市場リスクの尺度であるバリュー・アット・リスク（VaR 保有期間1日、信頼区間99%）は、平均で5,400万ユーロでした。VaRは市場がボラティリティショックの最中だった3月下旬の急上昇で到達した7,000万ユーロ超から戻していますが、2019年度の底より上に留まっています。

FICC¹業務の営業収益は、当四半期は20億1,300万ユーロとなり、前年同期（7億9,300万ユーロ）と比べ大幅に増加しました。事業活動が全て力強く伸びたこと（プライマリー/クレジットマーケット業務、金利/為替/エマージング市場業務）に加え、全地域が増収を記録しました。債券市場では、特に健康危機に関連する特定のニーズに伴って高水準の事業活動を達成しました。具体的には、ソブリンや準ソブリンの発行体の案件を当四半期に40以上手掛け（2019年度と比べ、四半期平均の3倍²）、また、社債発行の主幹事を（欧州のキャピタルマーケット・プラットフォームと連携して）世界中の400銘柄以上で務め、投資家に販売しました（2019年度と比べ、四半期平均の2倍²）。手掛けた取引は流通市場でも高水準でした。具体的には、法人顧客向け重要案件（為替やコモディティの多額のヘッジ案件）は60以上に上り、機関投資家顧客のポートフォリオ再配分により力強い資金フローが生じ（社債の流通市場の取引が36%増加）、加えて、電子プラットフォーム上の取引も大幅に増えました（危機中のピークは、商品に応じ、2019年度平均の2~5倍）。

株式・プライムサービス業務の営業収益は、当四半期は2億9,000万ユーロとなり、前年同期比52.8%減でした。当業務の事業活動は、いまだ厳しい市場において、デリバティブで徐々に正常化しました。地域別の事業活動は、米州とアジア太平洋では増加し、欧州では配当抑制勧告の影響の名残りはごく付加的に留まりました。プライムサービス業務では取引は減少しましたが、四半期後半に回復しました。

証券管理部門の営業収益は、当四半期は5億6,100万ユーロで前年同期比5.9%の減収でしたが、特定の取引の影響を除くと3.6%の増収でした。資産の期中平均残高は3月の市場下落に伴って前年同期比3.5%減少しましたが、四半期後半に新規の取引と市場の回復（2020年3月末比+5.5%）が寄与して回復しました。事業活動の水準は上昇し、資産減少の影響は取引増で十二分に相殺されました。当部門は商業的發展を続け、新規マンドートの発表も行いました（ベルギーのAxa、Eurazeo）。

CIB部門の営業費用は、当四半期は22億2,000万ユーロで、前年同期比11.2%増でした。費用増は高水準の事業活動に伴うもので、コスト節減策継続の効果で抑制され、高水準の正のジョーズ効果を生み出しました。

これらを受けて、CIB部門の営業総利益は当四半期に19億400万ユーロに上り、前年同期比72.7%の増益を果たしました。

CIB部門のリスク費用は、当四半期は3億1,900万ユーロでした。このうちコーポレート・バンキング部門が3億6,600万ユーロを占め（予想損失の事前引当が5,200万ユーロ）、グローバル・マーケット部門は4,500万ユーロの引当金戻入益を計上しました。

以上から、CIB部門の税引前利益は当四半期に15億8,700万ユーロとなり、前年同期比50.0%の増益でした。

¹ Fixed Income, Currencies, and Commodities（債券、通貨、コモディティ）

² 出所：Dealogic社、2020年6月末時点；ブックランナー；グローバルなソブリン、国際機関、政府系機関の債券取引、グローバルな投資適格社債取引

2020年度上半期において、CIB部門の営業収益は70億7,600万ユーロ、前年同期比15.9%増でした。危機関連で生じたお客様固有のニーズ（資金調達、金利・為替ヘッジ、リソースの再配分など）への対応により取引が急増し、3部門全てで増収を果たしました。

コーポレート・バンキング部門の営業収益は、当上半期は23億2,800万ユーロ、前年同期比12.9%の増収でした。全地域で順調に伸び、特にEMEA¹地域はお客様の支援に向けて力強く結集したことが奏功し、伸びが高水準でした。グローバル・マーケット部門の営業収益は36億1,000万ユーロ、前年同期比23.1%増でした。FICC²業務の営業収益は34億600万ユーロと大幅増でした。顧客取引の活発さが増収要因となり、例えばプライマリー/クレジット市場における持続的な高水準の取引、金利市場における力強い取引の伸び、為替・エマージング市場における好調な取引の伸びが貢献しました。株式・プライムサービス業務の営業収益は2億300万ユーロへ急減しました（前年同期は11億300万ユーロ）。事業活動は正常化の方向に戻りましたが、市場の急落ショックに加え、欧州当局が2020年度第1四半期に求めた配当抑制³の影響を大きく被りました。証券管理部門の営業収益は11億3,800万ユーロ、前年同期比2.3%増⁴でした。特に取引高の増加や新規マンドートが寄与しました。

CIB部門の営業費用は、当上半期は46億1,200万ユーロとなり、前年同期比3.4%増でした。事業の伸びに伴って増加しましたが、コスト節減策による抑制が奏功し、12.5ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、CIB部門の営業総利益は当上半期に24億6,300万ユーロとなり、前年同期比49.5%の増益でした。

CIB部門のリスク費用は6億8,200万ユーロでした。主体は健康危機から予想される影響に伴う費用でした。

以上から、CIB部門の税引前利益は当上半期に17億8,900万ユーロに上り、前年同期比13.8%の増益でした。

*
* *

¹ EMEA : 欧州・中東・アフリカ

² Fixed Income, Currencies, and Commodities (債券、通貨、コモディティ)

³ 2020年度第1四半期に関する留意事項：-1億8,400万ユーロは、欧州当局による2019年配当支払抑制勧告による。この額の中には企業が新たな経済環境下で自由に決定する配当抑制の影響は含まれていない。

⁴ 2019年度上半期比+7.7%（2019年度第2四半期の特定の取引の好影響を除く）

コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は、当四半期は**7,800**万ユーロ、前年同期は**5,300**万ユーロでした。当四半期の営業収益がマイナスに陥った主因は、健康危機によって生じたプリンシパル・インベストメントのバリュエーション低下です。

営業費用は、当四半期は**3億2,900**万ユーロでした。この中には、一時項目として、健康危機関連の寄付およびスタッフ安全対策費用が**8,600**万ユーロ、事業再編費用¹および事業適応費用²が**3,000**万ユーロ（前年同期は**1億1,400**万ユーロ）、IT強化費用が**4,500**万ユーロ含まれています。計画通り、事業変革費用は2020年度には計上されていません（前年同期は**2億2,200**万ユーロ）。

リスク費用は、当四半期は**3,300**万ユーロでした。前年同期は**700**万ユーロの引当金戻入益が計上されました。

営業外項目は、当四半期は**1億200**万ユーロの利益となりました（前年同期は**8,100**万ユーロの利益）。当四半期の営業外項目には、建物売却による譲渡益（**+8,300**万ユーロ）が反映されています。ちなみに、前年同期の営業外項目には、インドのSBI Life持分**2.5%**売却による譲渡益および残部持分（**5.2%**）の連結範囲からの除外による影響（**+6億1,200**万ユーロ）、バンクウエストののれんの一部減損損失（**-5億**ユーロ）が含まれていました。

以上から、コーポレート・センターの税引前損益は当四半期に**3億2,000**万ユーロの損失となりました。これに対し、前年同期は**2億7,200**万ユーロの損失でした。

2020年度上半期において、コーポレート・センターの営業収益は**4,800**万ユーロで（前年同期は**9,000**万ユーロ）、特に健康危機によって生じたプリンシパル・インベストメントのマイナス寄与が反映されています。営業費用は**4億4,200**万ユーロでした。この中には、一時項目として、健康危機関連の寄付およびスタッフ安全対策費用が**8,600**万ユーロ、事業再編費用³および事業適応費用²が**7,600**万ユーロ（前年同期は**1億5,100**万ユーロ）、IT強化費用が**7,900**万ユーロ含まれています。計画通り、事業変革費用は2020年度には計上されていません（前年同期は**3億9,000**万ユーロ）。リスク費用は、予想損失の事前引当の影響を反映し、**4,600**万ユーロでした（前年同期は純額で**300**万ユーロの引当金戻入益を計上）。営業外項目は**4億8,300**万ユーロの利益で（前年同期は**7億400**万ユーロの利益）、建物売却による譲渡益（**+4億6,400**万ユーロ）が反映されています。ちなみに、前年同期の営業外項目には、インドのSBI Life持分**16.8%**売却による譲渡益および残部⁴の連結範囲からの除外による影響（**+14億5,000**万ユーロ）、のれんの減損損失（**-8億1,800**万ユーロ）が含まれていました。以上から、コーポレート・センターの税引前利益は、当上半期は**7,800**万ユーロとなりました（前年同期は**800**万ユーロ）。

¹ 特に特定の事業（とりわけCIB部門）の中止・再編に関連

² 特にウェルス・マネジメント部門、バンクウエスト、CIB部門に関連

³ 特にRaiffeisen Bank Polskaの統合および特定の事業（とりわけBNP Paribas Suisse）の中止・再編に関わる事業再編費用

⁴ SBI Life株の残りの5.2%持分



財務構造

当グループのバランスシートは極めて盤石です。

普通株式等Tier1比率は2020年6月末現在で12.4%となり、2020年3月末の水準から40bp上昇しました。この上昇の要因は以下の通りです。

- 内部的影響：特に、配当性向50%を考慮後、当四半期純利益を剰余金に計上 (+20 bp)
- 規制変更（自己資本規制の修正「quick fix」）を考慮 (+20 bp)

他の要因が普通株式等Tier 1比率に及ぼした影響は全体として限定的でした。

2020年6月末時点の普通株式等Tier1比率は、欧州中央銀行（ECB）の義務付け比率（2020年6月末現在9.22%¹）を大幅に上回っています。

バランスシートの規模は2020年3月末比で小幅縮小しました（-1.8%）。

レバレッジ比率²は、2020年6月末現在で4.0%でした。

即時利用可能な剰余資金は2020年6月末現在で4,250億ユーロに上りました。これは短期資金調達との関係で1年超の余裕資金があることを意味しています。

*
* *

¹ カウンターシクリカル・バッファ解除を考慮し、資本要求指令5（CRD5）第104a条に従い、第2の柱ガイダンス（P2G）を除いた比率

² 2014年10月10日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

連結損益計算書

	2Q20	2Q19	2Q20 / 2Q19	1Q20	2Q20 / 1Q20	1H20	1H19	1H20 / 1H19
<i>(単位：百万ユーロ)</i>								
グループ								
営業収益	11,675	11,224	+4.0%	10,888	+7.2%	22,563	22,368	+0.9%
営業費用および減価償却費	-7,338	-7,435	-1.3%	-8,157	-10.0%	-15,495	-15,884	-2.4%
営業総利益	4,337	3,789	+14.5%	2,731	+58.8%	7,068	6,484	+9.0%
リスク費用	-1,447	-621	n.s.	-1,426	+1.5%	-2,873	-1,390	n.s.
営業利益	2,890	3,168	-8.8%	1,305	n.s.	4,195	5,094	-17.6%
持分法適用会社投資損益	130	180	-27.8%	95	+36.8%	225	314	-28.3%
その他の営業外項目	106	29	n.s.	395	-73.2%	501	652	-23.2%
営業外項目	236	209	+12.9%	490	-51.8%	726	966	-24.8%
税引前利益	3,126	3,377	-7.4%	1,795	+74.2%	4,921	6,060	-18.8%
法人税	-746	-795	-6.2%	-411	+81.5%	-1,157	-1,462	-20.9%
少数株主帰属純利益	-81	-114	-28.9%	-102	-20.6%	-183	-212	-13.7%
株主帰属純利益	2,299	2,468	-6.8%	1,282	+79.3%	3,581	4,386	-18.4%
コストインカム率	62.9%	66.2%	-3.3 pt	74.9%	-12.0 pt	68.7%	71.0%	-2.3 pt

BNPパリバの2020年度第2四半期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリースに含まれています。

法令上要求される開示情報は全て、登録書類を含めて、<http://invest.bnpparibas.com>の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。



2020年度第2四半期 - コア事業別業績

	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	コーポレート・ センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	3,602	4,027	4,123	11,753	-78	11,675
対前年同期比	-5.5%	-5.5%	+33.1%	+5.2%	n.s.	+4.0%
対前四半期比	-4.1%	-0.6%	+39.7%	+9.2%	n.s.	+7.2%
営業費用および減価償却費	-2,376	-2,414	-2,220	-7,009	-329	-7,338
対前年同期比	-2.8%	-5.7%	+11.2%	+0.2%	-24.7%	-1.3%
対前四半期比	-17.6%	-12.7%	-7.2%	-12.9%	n.s.	-10.0%
営業総利益	1,226	1,613	1,904	4,743	-406	4,337
対前年同期比	-10.3%	-5.3%	+72.7%	+13.7%	+6.0%	+14.5%
対前四半期比	+40.6%	+25.3%	n.s.	+74.5%	n.s.	+58.8%
リスク費用	-329	-765	-319	-1,414	-33	-1,447
対前年同期比	+54.4%	+96.2%	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
対前四半期比	+5.9%	+3.6%	-12.1%	+0.0%	n.s.	+1.5%
営業利益	897	848	1,585	3,329	-439	2,890
対前年同期比	-22.2%	-35.4%	+47.0%	-6.1%	+16.6%	-8.8%
対前四半期比	+59.9%	+54.7%	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
持分法適用会社投資損益	1	116	-3	113	17	130
その他の営業外項目	1	-3	6	4	102	106
税引前利益	899	960	1,587	3,446	-320	3,126
対前年同期比	-21.8%	-33.4%	+50.0%	-5.6%	+17.8%	-7.4%
対前四半期比	+60.2%	+51.4%	n.s.	n.s.	n.s.	+74.2%

	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	コーポレート・ センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	3,602	4,027	4,123	11,753	-78	11,675
前年同期	3,810	4,262	3,099	11,171	53	11,224
前四半期	3,757	4,053	2,953	10,762	126	10,888
営業費用および減価償却費	-2,376	-2,414	-2,220	-7,009	-329	-7,338
前年同期	-2,443	-2,559	-1,997	-6,999	-436	-7,435
前四半期	-2,885	-2,766	-2,393	-8,043	-114	-8,157
営業総利益	1,226	1,613	1,904	4,743	-406	4,337
前年同期	1,367	1,703	1,102	4,172	-383	3,789
前四半期	872	1,287	560	2,719	12	2,731
リスク費用	-329	-765	-319	-1,414	-33	-1,447
前年同期	-213	-390	-24	-628	7	-621
前四半期	-311	-739	-363	-1,413	-13	-1,426
営業利益	897	848	1,585	3,329	-439	2,890
前年同期	1,154	1,313	1,078	3,545	-377	3,168
前四半期	561	548	197	1,306	-1	1,305
持分法適用会社投資損益	1	116	-3	113	17	130
前年同期	2	149	5	156	24	180
前四半期	0	75	3	77	18	95
その他の営業外項目	1	-3	6	4	102	106
前年同期	-6	-21	-25	-52	81	29
前四半期	0	12	2	14	381	395
税引前利益	899	960	1,587	3,446	-320	3,126
前年同期	1,149	1,442	1,058	3,649	-272	3,377
前四半期	561	634	202	1,397	398	1,795
法人税						-746
少数株主帰属純利益						-81
株主帰属純利益						2,299

**2020年度上半期 – コア事業別業績**

	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング部門	事業部門合計	コーポレート・ センター	グループ 合計
<i>(単位：百万ユーロ)</i>						
営業収益	7,359	8,080	7,076	22,515	48	22,563
対前年同期比	-3.5%	-5.4%	+15.9%	+1.1%	-46.5%	+0.9%
営業費用および減価償却費	-5,260	-5,180	-4,612	-15,053	-442	-15,495
対前年同期比	-1.5%	-1.3%	+3.4%	+0.0%	-47.1%	-2.4%
営業総利益	2,099	2,900	2,463	7,462	-394	7,068
対前年同期比	-8.2%	-12.0%	+49.5%	+3.2%	-47.2%	+9.0%
リスク費用	-641	-1,505	-682	-2,827	-46	-2,873
対前年同期比	+23.7%	+83.8%	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
営業利益	1,458	1,396	1,781	4,635	-440	4,195
対前年同期比	-17.5%	-43.7%	+11.9%	-20.6%	-40.9%	-17.6%
持分法適用会社投資損益	0	190	0	190	35	225
その他の営業外項目	1	9	7	18	483	501
税引前利益	1,460	1,595	1,789	4,843	78	4,921
対前年同期比	-17.0%	-41.4%	+13.8%	-20.0%	n.s.	-18.8%
法人税						-1,157
少数株主帰属純利益						-183
株主帰属純利益						3,581

連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
グループ						
営業収益	11,675	10,888	11,333	10,896	11,224	11,144
営業費用および減価償却費	-7,338	-8,157	-8,032	-7,421	-7,435	-8,449
営業総利益	4,337	2,731	3,301	3,475	3,789	2,695
リスク費用	-1,447	-1,426	-966	-847	-621	-769
営業利益	2,890	1,305	2,335	2,628	3,168	1,926
持分法適用会社投資損益	130	95	129	143	180	134
その他の営業外項目	106	395	65	34	29	623
税引前利益	3,126	1,795	2,529	2,805	3,377	2,683
法人税	-746	-411	-582	-767	-795	-667
少数株主帰属純利益	-81	-102	-98	-100	-114	-98
株主帰属純利益	2,299	1,282	1,849	1,938	2,468	1,918
コスト/インカム率	62.9%	74.9%	70.9%	68.1%	66.2%	75.8%



(単位: 百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
リテール・バンキング事業およびサービス事業 PEL/CELの影響を除く						
営業収益	7,615	7,823	8,286	8,006	8,045	8,096
営業費用および減価償却費	-4,790	-5,650	-5,274	-5,084	-5,002	-5,586
営業総利益	2,825	2,172	3,012	2,922	3,042	2,510
リスク費用	-1,095	-1,050	-826	-765	-604	-733
営業利益	1,730	1,122	2,187	2,158	2,439	1,777
持分法適用会社投資損益	116	74	111	119	151	108
その他の営業外項目	-2	12	-4	3	-27	1
税引前利益	1,845	1,208	2,294	2,280	2,563	1,886
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	55.8	55.8	54.9	54.7	54.6	54.3

(単位: 百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
リテール・バンキング事業およびサービス事業						
営業収益	7,630	7,810	8,278	7,997	8,072	8,099
営業費用および減価償却費	-4,790	-5,650	-5,274	-5,084	-5,002	-5,586
営業総利益	2,840	2,159	3,004	2,913	3,070	2,513
リスク費用	-1,095	-1,050	-826	-765	-604	-733
営業利益	1,745	1,109	2,178	2,148	2,467	1,780
持分法適用会社投資損益	116	74	111	119	151	108
その他の営業外項目	-2	12	-4	3	-27	1
税引前利益	1,859	1,195	2,286	2,270	2,591	1,889
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	55.8	55.8	54.9	54.7	54.6	54.3

(単位: 百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
国内市場部門 (フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む) ¹ PEL/CELの影響を除く						
営業収益	3,721	3,913	4,036	3,892	3,925	3,961
営業費用および減価償却費	-2,446	-2,970	-2,635	-2,607	-2,516	-2,983
営業総利益	1,276	943	1,402	1,285	1,408	978
リスク費用	-331	-313	-254	-245	-214	-307
営業利益	944	630	1,147	1,040	1,194	671
持分法適用会社投資損益	1	0	4	1	2	-6
その他の営業外項目	1	1	4	2	-6	1
税引前利益	946	630	1,156	1,043	1,190	666
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	62	56	62	67	68	58
国内市場部門税引前利益	884	574	1,093	975	1,122	608
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	26.1	26.0	25.7	25.7	25.7	25.5

(単位: 百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
国内市場部門 (フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	3,602	3,757	3,887	3,748	3,810	3,816
営業費用および減価償却費	-2,376	-2,885	-2,559	-2,539	-2,443	-2,897
営業総利益	1,226	872	1,328	1,209	1,367	919
リスク費用	-329	-311	-252	-246	-213	-305
営業利益	897	561	1,077	963	1,154	615
持分法適用会社投資損益	1	0	4	1	2	-6
その他の営業外項目	1	0	4	2	-6	1
税引前利益	899	561	1,085	966	1,149	610
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	26.1	26.0	25.7	25.7	25.7	25.5

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業（フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹						
営業収益	1,423	1,511	1,560	1,558	1,624	1,597
うち受取利息純額	788	810	881	891	916	915
うち手数料	634	702	679	667	708	682
営業費用および減価償却費	-1,074	-1,166	-1,152	-1,163	-1,102	-1,186
営業総利益	349	345	408	396	522	412
リスク費用	-90	-101	-98	-75	-83	-72
営業利益	259	244	310	320	440	340
営業外項目	0	-1	6	0	0	1
税引前利益	259	244	316	320	440	340
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-33	-35	-32	-40	-37	-34
フランス国内リテール・バンキング税引前利益	226	209	283	281	402	306
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	10.8	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業（フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹ PEL/CELの影響を除く						
営業収益	1,408	1,524	1,569	1,568	1,596	1,595
うち受取利息純額	774	823	889	901	889	912
うち手数料	634	702	679	667	708	682
営業費用および減価償却費	-1,074	-1,166	-1,152	-1,163	-1,102	-1,186
営業総利益	334	358	417	405	495	409
リスク費用	-90	-101	-98	-75	-83	-72
営業利益	244	257	318	330	412	337
営業外項目	0	-1	6	0	0	1
税引前利益	245	257	324	330	412	338
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-33	-35	-32	-40	-37	-34
フランス国内リテール・バンキング税引前利益	212	222	292	290	374	304
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	10.8	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
フランス国内リテール・バンキング事業（フランス国内プライベート・バンキングの2/3を含む）						
営業収益	1,354	1,437	1,489	1,490	1,549	1,522
営業費用および減価償却費	-1,040	-1,129	-1,116	-1,133	-1,065	-1,147
営業総利益	314	308	373	357	484	376
リスク費用	-88	-99	-96	-77	-81	-70
営業利益	226	209	277	281	402	305
営業外項目	0	-1	6	0	0	1
税引前利益	226	209	283	281	402	306
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	10.8	10.6	10.1	10.0	9.9	9.8

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

2. PEL/CELに係る引当金に関する留意事項：当該引当金は、フランス国内リテール・バンキング事業収益において計上されているが、住宅財形貯蓄制度（Plans Epargne Logement: PEL）および住宅財形貯蓄口座（Comptes Epargne Logement: CEL）から全存続期間にわたり生じるリスクを考慮している

(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
PEL-CELの影響	15	-13	-9	-10	28	2

(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
BNLバンカ・コメルシアレ (イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む) ¹						
営業収益	649	659	755	663	684	675
営業費用および減価償却費	-422	-465	-450	-446	-433	-470
営業総利益	227	194	305	217	251	205
リスク費用	-122	-120	-109	-109	-107	-165
営業利益	105	74	196	108	144	40
営業外項目	-2	0	-4	0	0	0
税引前利益	104	73	191	108	144	40
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-9	-10	-10	-10	-11	-10
BNLバンカ・コメルシアレ税引前利益	95	64	181	98	133	30
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
BNLバンカ・コメルシアレ (イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	629	637	732	641	663	654
営業費用および減価償却費	-410	-453	-438	-434	-422	-460
営業総利益	218	184	295	207	241	195
リスク費用	-122	-120	-109	-109	-108	-164
営業利益	96	64	186	98	133	30
営業外項目	-2	0	-4	0	0	0
税引前利益	95	64	181	98	133	30
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
ベルギー国内リテール・バンキング事業 (ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む) ¹						
営業収益	835	885	878	853	878	915
営業費用および減価償却費	-499	-830	-560	-541	-535	-844
営業総利益	336	55	318	312	342	71
リスク費用	-80	-54	-5	-20	3	-34
営業利益	256	0	313	292	345	37
持分法適用会社投資損益	4	4	6	5	5	-3
その他の営業外項目	2	1	2	1	-6	0
税引前利益	262	5	321	298	344	35
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-19	-10	-19	-17	-19	-14
ベルギー国内リテール・バンキング税引前利益	243	-4	302	281	325	21
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.6	5.7	5.8	5.8	5.9	5.8
ベルギー国内リテール・バンキング事業 (ベルギー国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	794	842	836	813	836	868
営業費用および減価償却費	-477	-797	-536	-519	-512	-811
営業総利益	317	45	300	295	323	57
リスク費用	-79	-54	-5	-20	3	-33
営業利益	237	-9	294	275	326	24
持分法適用会社投資損益	4	4	6	5	5	-3
その他の営業外項目	2	1	2	1	-6	0
税引前利益	243	-4	302	281	325	21
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	5.6	5.7	5.8	5.8	5.9	5.8

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門（ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む） ¹						
営業収益	829	845	834	807	767	776
営業費用および減価償却費	-451	-508	-473	-457	-447	-483
営業総利益	378	337	362	351	320	292
リスク費用	-40	-38	-42	-41	-27	-37
営業利益	339	299	320	310	293	256
持分法適用会社投資損益	-3	-4	-2	-4	-4	-3
その他の営業外項目	0	0	0	1	0	0
税引前利益	336	295	318	307	290	253
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-2	-1	-1	-1	0
その他国内市場部門税引前利益	335	293	318	306	289	253
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5

(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門（ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む）						
営業収益	825	841	830	804	763	772
営業費用および減価償却費	-448	-505	-469	-454	-444	-480
営業総利益	377	335	361	350	319	292
リスク費用	-40	-38	-42	-41	-27	-37
営業利益	337	297	319	309	292	255
持分法適用会社投資損益	-3	-4	-2	-4	-4	-3
その他の営業外項目	0	0	0	1	0	0
税引前利益	335	293	318	306	289	253
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位: 百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
国際金融サービス部門						
営業収益	4,027	4,053	4,391	4,248	4,262	4,282
営業費用および減価償却費	-2,414	-2,766	-2,715	-2,545	-2,559	-2,688
営業総利益	1,613	1,287	1,675	1,704	1,703	1,594
リスク費用	-765	-739	-574	-518	-390	-428
営業利益	848	548	1,101	1,186	1,313	1,165
持分法適用会社投資損益	116	75	107	118	149	113
その他の営業外項目	-3	12	-8	1	-21	0
税引前利益	960	634	1,201	1,305	1,442	1,279
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	29.8	29.8	29.2	29.1	28.9	28.8
パーソナル・ファイナンス						
営業収益	1,302	1,475	1,485	1,444	1,440	1,427
営業費用および減価償却費	-641	-787	-721	-664	-702	-770
営業総利益	661	688	764	781	738	656
リスク費用	-450	-582	-370	-366	-289	-329
営業利益	211	105	394	415	449	327
持分法適用会社投資損益	-5	8	-9	19	17	13
その他の営業外項目	4	0	-11	0	-13	0
税引前利益	210	113	374	434	454	340
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	8.1	8.1	7.9	8.0	7.9	7.8
欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコ国内プライベート・バンキングの100%を含む)¹						
営業収益	609	665	702	657	674	665
営業費用および減価償却費	-414	-490	-459	-439	-445	-456
営業総利益	196	175	243	218	230	210
リスク費用	-143	-86	-113	-112	-97	-77
営業利益	53	89	129	107	132	133
持分法適用会社投資損益	53	55	61	44	66	53
その他の営業外項目	-25	3	8	-1	0	0
税引前利益	80	147	198	150	198	186
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-3	-1	-1	-1	-1
欧州・地中海沿岸諸国部門税引前利益	79	144	197	150	197	185
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコ国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	606	660	699	655	672	663
営業費用および減価償却費	-411	-488	-458	-438	-444	-455
営業総利益	194	172	241	217	228	209
リスク費用	-143	-86	-113	-111	-97	-77
営業利益	51	86	128	106	131	132
持分法適用会社投資損益	53	55	61	44	66	53
その他の営業外項目	-25	3	8	-1	0	0
税引前利益	79	144	197	150	197	185
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
バンクウエスト（米国プライベート・バンキングの100%を含む） ¹						
営業収益	629	611	611	601	593	569
営業費用および減価償却費	-432	-465	-406	-433	-431	-442
営業総利益	197	146	205	168	162	127
リスク費用	-167	-62	-84	-43	-2	-18
営業利益	30	83	121	125	160	109
持分法適用会社投資損益	0	0	0	0	0	0
その他の営業外項目	-3	0	-5	1	1	0
税引前利益	27	83	116	126	161	109
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-5	-5	-6	-7	-7	-8
NRBI	22	78	110	119	153	101
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.7	5.7	5.4	5.4	5.3	5.3
(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
バンクウエスト（米国プライベート・バンキングの2/3を含む）						
営業収益	614	596	595	585	576	553
営業費用および減価償却費	-422	-455	-396	-423	-421	-433
営業総利益	192	141	199	161	155	119
リスク費用	-167	-62	-84	-43	-2	-18
営業利益	25	78	115	118	152	101
営業外項目	-3	0	-5	1	1	0
税引前利益	22	78	110	119	153	101
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	5.7	5.7	5.4	5.4	5.3	5.3
(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
保険部門						
営業収益	828	579	654	761	779	874
営業費用および減価償却費	-339	-393	-380	-370	-360	-389
営業総利益	489	186	274	390	419	484
リスク費用	-2	1	-1	-2	1	-2
営業利益	487	187	273	389	420	482
持分法適用会社投資損益	39	1	30	43	57	37
その他の営業外項目	21	9	0	0	-16	0
税引前利益	548	197	304	432	461	520
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	8.5	8.6	8.4	8.4	8.3	8.4
(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ウェルス&アセット・マネジメント部門						
営業収益	678	743	957	803	795	766
営業費用および減価償却費	-601	-642	-760	-649	-632	-641
営業総利益	77	101	197	154	163	125
リスク費用	-4	-9	-6	4	-2	-2
営業利益	74	92	191	157	161	123
持分法適用会社投資損益	28	11	25	12	10	10
その他の営業外項目	0	0	-1	0	7	0
税引前利益	102	102	216	170	177	132
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0

1. プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
ホールセールバンキング部門						
営業収益	4,123	2,953	3,101	2,873	3,099	3,008
営業費用および減価償却費	-2,220	-2,393	-2,229	-1,974	-1,997	-2,463
営業総利益	1,904	560	871	898	1,102	545
リスク費用	-319	-363	-80	-81	-24	-32
営業利益	1,585	197	791	817	1,078	513
持分法適用会社投資損益	-3	3	4	5	5	2
その他の営業外項目	6	2	6	11	-25	-2
税引前利益	1,587	202	801	834	1,058	514
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	24.3	22.3	21.7	21.6	21.3	20.7
コーポレート・バンキング部門						
営業収益	1,258	1,070	1,210	1,039	1,094	969
営業費用および減価償却費	-632	-748	-668	-600	-607	-724
営業総利益	627	321	541	440	487	245
リスク費用	-366	-201	-80	-88	-21	-35
営業利益	261	121	461	352	467	210
営業外項目	-2	3	3	4	3	3
税引前利益	259	124	464	356	470	213
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	13.6	13.0	12.5	12.5	12.4	12.2
グローバル・マーケット部門						
営業収益	2,304	1,306	1,340	1,299	1,409	1,523
うち FICC	2,013	1,392	820	915	793	1,035
うち株式およびプライムサービス	290	-87	520	384	615	488
営業費用および減価償却費	-1,137	-1,162	-1,117	-926	-913	-1,276
営業総利益	1,167	143	223	373	496	248
リスク費用	45	-161	0	4	-6	3
営業利益	1,212	-17	222	377	491	251
持分法適用会社投資損益	-2	1	0	1	1	0
その他の営業外項目	3	0	6	9	-25	1
税引前利益	1,214	-17	229	387	467	252
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	9.8	8.4	8.3	8.1	8.0	7.7
証券管理部門						
営業収益	561	577	551	535	596	516
営業費用および減価償却費	-451	-482	-444	-449	-477	-463
営業総利益	109	95	107	86	119	53
リスク費用	2	-2	0	2	2	-1
営業利益	111	93	108	88	121	52
営業外項目	3	2	0	2	0	-3
税引前利益	114	95	108	91	121	50
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	1.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8



(単位：百万ユーロ)	2Q20	1Q20	4Q19	3Q19	2Q19	1Q19
コーポレート・センター						
営業収益	-78	126	-45	27	53	37
営業費用および減価償却費	-329	-114	-529	-363	-436	-400
うち事業改編、再編および適応費用	-75	-79	-420	-256	-335	-206
営業総利益	-406	12	-574	-336	-383	-363
リスク費用	-33	-13	-60	-1	7	-4
営業利益	-439	-1	-634	-337	-377	-367
持分法適用会社投資損益	17	18	14	19	24	24
その他の営業外項目	102	381	62	20	81	623
税引前利益	-320	398	-558	-299	-272	280

代替的業績指標 (Alternative Performance Measures: APM)
フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第223-1条に基づく開示

代替的業績指標	定義	使用理由
事業部門損益計算書 (P/L) (各事業部門の営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の損益計算書の合計 (なお、国内市場部門の損益には、フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む) BNPパリバ・グループ損益計算書 = 事業部門 + コーポレート・センターの損益計算書の合計 グループ全体の損益計算書との関係は「コア事業別業績」の表で開示	BNPパリバ・グループの本業の業績を示す指標
PEL/CELの影響を除く損益計算書の合計 (各事業部門の営業収益、営業総利益、営業利益、税引前利益の合計)	PEL/CELの影響を除く損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は「四半期業績の推移」の表で開示	PEL/CEL口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対する引当金変動を除く、当期の損益計算書の合計を表す指標
プライベート・バンキングの100%を含むリテール・バンキング事業の損益計算書の合計	プライベート・バンキング全体の損益を含むリテール・バンキング事業の損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は「四半期業績の推移」の表で開示	リテール・バンキング事業の業績を示す指標であり、プライベート・バンキングの業績の全部を含む(プライベート・バンキングは、リテール・バンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割合にもとづきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数値)
営業費用の変化 (IFRIC 21を除外後)	IFRIC 21に基づく税金・拠出金を除いた上で、営業費用の変化を算定	IFRIC 21に基づく税金・拠出金は上半期に通年分のほぼ全額が計上される。上半期の営業費用からIFRIC 21を除外し、他の期間との比較の際の混乱を避け、営業費用の変化をとらえる指標。
コスト/インカム率	営業費用を営業収益で除した比率	銀行業務における業務の効率性を表す指標
リスク費用+期首顧客向け融資残高 (単位: bp)	リスク費用(単位: 百万ユーロ)を期首の顧客向け融資残高で除したもの 詳細な算定方法については、決算資料に添付された「融資残高に関わるリスク費用」で開示	事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標
不良債権カバー率	金融資産(ステージ3)の引当金と当該資産(ステージ3)の減損後残高との関係を表す指標。 対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む(保険事業を除く)	不良債権に対する引当の状況を表す指標
一時項目を除く株主帰属純利益	一時項目を除いて算定された株主帰属純利益 一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」で開示	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を除外した、BNPパリバ・グループの純利益を表す指標。除外される項目の主なものに、事業再編、事業適応、IT強化および事業変革費用がある。



代替的業績指標	定義	使用理由
自己資本利益率 (ROE)	ROEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標
有形自己資本利益率 (ROTE)	ROTEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標

比較分析 — 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

- 企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。
- 事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。
- 連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算は全て、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

営業費用：従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他経費、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

事業部門：以下の3部門から成る：

- **国内市場部門**：フランス国内リテール・バンキング (FRB)、BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc)、ベルギー国内リテール・バンキング (BRB)、その他国内市場部門 (アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテール・バンキング (LRB) を含む)
- **国際金融サービス部門 (IFS)**：欧州・地中海沿岸諸国部門、バンクウェスト、パーソナル・ファイナンス、保険部門、ウェルス&アセット・マネジメント (WAM) を含む。WAM には、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、および不動産管理部門が含まれる
- **ホールセールバンキング事業 (CIB)**：コーポレート・バンキング部門、グローバル・マーケット部門、証券管理部門を含む

多角的な事業基盤を結集し、経済に貢献.....	2
BNPパリバの多角的かつ統合的なビジネスモデルの盤石さを証明.....	3
リテール・バンキング&サービス事業.....	7
国内市場部門.....	7
国際金融サービス部門.....	12
ホールセールバンキング（CIB）部門.....	17
コーポレート・センター.....	20
財務構造.....	21
連結損益計算書.....	22
2020年度第2四半期 – コア事業別業績.....	23
2020年度上半期 – コア事業別業績.....	24
連結四半期業績の推移.....	25
代替的業績指標（Alternative Performance Measures: APM） フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第223-1条に基づく開示.....	34

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくはBNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化（世界的には特に新型コロナウイルス感染症流行関連）、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレスリリースに含まれるいかなる予測的な記述も本プレスリリース発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス（Supervisory Review and Evaluation Process : SREP）」は欧州中央銀行（ECB）により毎年実施されますが、BNP パリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれるBNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。

Investor Relations & Financial Information

Chrystelle Renaud +33 (0)1 42 98 46 45

Lisa Bugat +33 (0)1 42 98 23 40

Didier Leblanc +33 (0)1 42 98 43 13

Philippe Regli +33 (0)1 43 16 94 89

Debt Investor Relation Officer

Claire Sineux +33 (0)1 42 98 31 99

E-mail: investor.relations@bnpparibas.com

<https://invest.bnpparibas.com>



BNP PARIBAS

**The bank
for a changing
world**